

## 5) 内部からの景観の検証

### (1)調査の目的

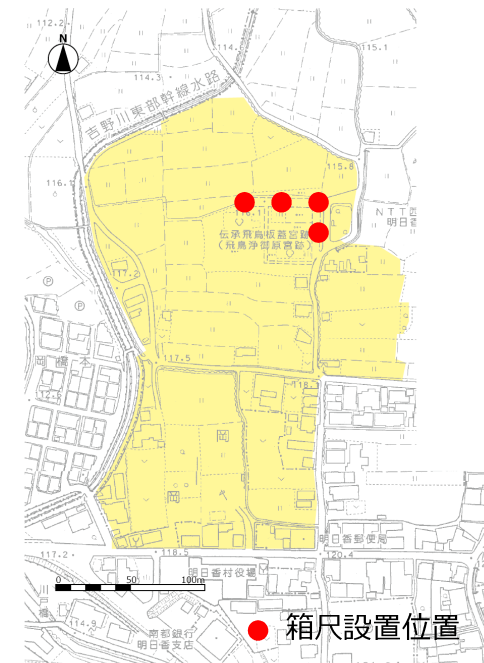
- 立体的な遺構表示による景観面での課題点を抽出するとともに、来訪者が宮跡内部から周辺を見たときに、背景となる景観と遺構表示がどのように見えるか、来訪者の立つ位置、仮設物等の「位置」と「高さ」の確認を行った

### (2)調査の方法

- 既設柱表示の位置4ヶ所（コーナー部を含むL字型）に箱尺を設置して、宮跡内部から写真撮影を行った後、図上で構造物高さラインを設定し、それによる背景の見え方について検証を行った

### (3)調査結果

- 宮跡内郭北東隅については、壁状の構造物を設置することで、酒船石遺跡の竹林への見通しが妨げられることが確認された。一方、近景には民家があり、構造物によって民家への視線を遮ることも可能となる
- 宮跡内部から北向きの景観では、H=2m程度の構造物であっても、構造物を連続させる場合には、香久山、耳成山、甘櫨丘等の山裾部分への見通しが妨げられることが確認された。同時に、宮跡北側に広がる田園風景も見えなくなることが確認された
- 内郭北面においては、面的な立ち上がりのある（連続的な壁状の）構造物を設置する場合、宮跡北側に広がる景観の支障となることから、十分な配慮が必要と考えられる



# 1 飛鳥宮跡における景観

## □ 内郭北側における「見え方」の検証



北東隅部 D=50m



● 写真撮影位置



1 飛鳥宮跡における景観



内郭北面 D=30m



内郭北面 D=50m



● 写真撮影位置